



# 香風

令和5年  
8月7日 第6号  
編集責任  
校長 小川 雄一郎

## 〔南中学校 学校教育目標〕

「郷土を愛し、確かな学力を身につけ、未来を切り拓こうとする子どもの育成」

## 〔中期的な教育目標〕

- ① 一人ひとりが主体性をもち、学び合い高め合う生徒の育成
- ② 自他を尊重し、仲間と共に粘り強く取り組む生徒の育成



〔本年度の重点目標〕：「**進んで行動する生徒の育成**」



## ○ 福岡県中学校総合体育大会全日程が終了

福岡県中学校総合体育大会の全日程が、7月31日の相撲大会をもって終了しました。本校からは、陸上部、相撲部、水泳部が県大会に出場し、持てる力を発揮しています。なお、クラブチームでの登録出場ですが、柔道県大会に3年男子1名が出場しています。 [福岡県中学校総合体育大会結果]

＜陸上＞ 低学年4×100Mリレー 2位

※ 九州大会（沖縄大会）出場権を得ましたが、台風のため九州大会は中止となりました。

＜相撲＞ 1年 個人の部 優勝

運動部活動は、3年生から1・2年生へとバトンが渡され、新たな目標に向かって動き出しています。

## ○ 八女市中学生平和学習事業（報告）

8月5日（土）～6日（日）に、八女市中学生平和学習事業が開催され、本校代表として2年生の  さんが参加しました。

この事業は、八女市の平和事業の一環として、各市立学校から生徒代表（中学2年生対象）を被爆地広島へ派遣し、平和記念式典への参加や平和記念資料館を見学することを通して、戦争の悲惨さや命の尊さについて学ばせることです。市内から集まった10名の中学生は、1日目に世界文化遺産である厳島神社を見学し、2日目の8月6日は平和記念式典に参加しています。一泊二日とかなりハードなスケジュールでしたが、とても有意義な2日間となったようです。

＜  さんの感想から ＞

1日目は、（八女市内の）他校の人たちと一緒に昼食をとったり、班別行動で厳島神社などの歴史ある建物を見学したりすることができたのでとてもよかったです。

2日目は、平和記念公園で平和記念式典に参加し、そのあと原爆資料館へ行き、戦争の怖さ、悲惨さを改めて知り、戦争で悲しむ人を見たくない、見せたくないから、今の自分にできることから少しずつ、取り組めるといいなと思いました。



厳島神社 大鳥居



平和記念式典会場

なお、さんが広島に行って学んだこと、経験した内容については、校内で発表し、全校で学習を広げ、深めていく予定です。

## ○ 原爆投下から78年

1945年、8月6日午前8時15分に広島、8月9日午前11時2分に長崎へと原爆が投下されて78年。

全国の被爆者は、今年3月末の時点で11万3649人。(厚生労働省資料より)

被爆者数は、最も多かった1981年3月末の37万2264人のおよそ3割となり、年々、減少しています。被爆者全体の平均年齢は85.01歳。被爆者の記憶や体験をどう後世に伝えていくかが今後の大きな課題となっています。

南中学校では、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さ・・・その記憶が薄れていかないように、本日、各学年において平和学習を行い、戦争・命・平和について一緒に考えました。ご家庭でも話題にしていただければ幸いです。



学年	平和学習内容等
1年	「原爆の火」
2年	「風船爆弾」
3年	「岡山飛行場」

### 広島平和記念式典で読み上げられた「平和への誓い」全文（広島市HPより）

みなさんにとって「平和」とは何ですか。争いや戦争がないこと。差別をせず、違いを認め合うこと。悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて」と、叫び続ける母親。たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか」仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年が経ちました。今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。「生き残ってくれてありがとう」命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。友だちのよいところを見つけること。みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

令和5年（2023年）8月6日

こども代表